



2024 年度事業報告書

特定非営利活動法人パノラマ

2024 年度事業一覧

1. 子ども・学校支援事業部	
(1) 子ども事業～青葉区寄り添い型生活支援「.5 てんご」	青葉区委託事業
(2) 子ども支援事業	助成事業（横浜銀行〈はまぎん〉ミライを創るアクションプログラム）
(3) 学校連携事業 ①高校入学前支援事業 ②朝食提供事業（朝 BORDER） ③校内居場所カフェ＋食支援事業（2校） ④校内個別相談（2校） ⑤ボランティアさん養成講座 ⑥卒業生・中退生支援 ⑦校内居場所カフェ全国ネットワーク設立準備委員会	神奈川県教育委員会委託事業／助成事業（WAM および全国食支援活動支援協会）
2. 若年者就労支援事業	
(1) 有給職業体験「バイターン」事業 ①北部ユースプラザ・バイターン ②学校連携バイターン ③他団体へのバイターン導入支援	助成事業（中央共同募金会 赤い羽根福祉基金）
3. 若者自立支援事業	
(1) よこはま北部ユースプラザ事業	横浜市補助事業
4. 中高年ひきこもり支援事業	
(1) ブリッチ	自主事業
5. 啓発事業	
(1) 校内居場所カフェ・スタッフ養成講座事業	自主事業
(2) 各種広報事業	自主事業
6. 事務局	
(1) 組織基盤強化事業	助成事業（Panasonic NPO/NGO サポートファンド）

1. 子ども・学校支援事業

(1) 青葉区寄り添い型生活支援事業 .5 (てんご) ～事業概要～

生活困窮状態にあるなど養育環境に課題があり、支援を必要とする家庭に育つ小・中学生等の生活支援事業。将来の選択肢の幅を広げ、生まれ育った環境に左右されることなく学習習慣及び生活習慣を身につけ、自立した生活を送れるようになることを事業目標としている。また、当法人としては田奈高校との連携により中高接続支援の実現を目指すとともに、青葉区という地域と連携を深めることで切れ目のない支援の場づくりをしていく。

事業スタートから3年目となった2024年度は、土台を整える年ということで、これまでの事業運営の中で出てきた課題を解決するための新たな取り組みをしつつも、これまで取り組んできたことなどの整理に向かっていく1年となった。

利用児童の人数が多くなっていることが大きな課題となっていたが、今年度より区との協議の上、送迎時間も考慮して児童の利用人数を現実的に送迎・受け入れ可能な形に変更をしたことにより、スタッフが余裕を持って1人1人と関われる形に少しずつなっている。子どもたちも人数が減ることでそれぞれのペースで過ごせる空間が生まれ、落ち着いて過ごせる時間が増えてきていると感じている。

また、それと同時にスタッフ側に余裕があることで必要な時に保護者の話をきちんと聞く時間が生まれることで、保護者の安定が児童の安定に繋がる場面もあった。

また、3年が経つ中でクリスマス会や進級お祝い会など「恒例」のイベントが生まれてきており、子どもたちの中でも「今年も〇〇やるの？」と楽しみにする様子も見られるようになっている。

運営面においては業務時間の見直しにより朝礼を導入したことにより、今までは立ち話や日報を各自が読む形で伝達をしていたことを口頭で共有しすり合わせをする時間を作ることができた。

また、若いスタッフの補強が課題であったが、年度の後半からは、子ども・学校連携事業でのインターン生を含め、これまでボランティアとして関わってくれていた学生さんに入ってもらうことで、子どもたちとのコミュニケーションのチャンネルが増えるとともに、活動の幅を広げることができるようになった。

さらに、年度の最終盤に一部業務のマニュアルを、1年目からここまでの歩みを振り返りながらスタッフとともに作成できたことは、2年目に課題となっていた属人的なものに依っていたことを再度整理をして場で必要なことを言語化し

ていくことが少しでもできたのではないかと思う。送迎から居場所、そして関係機関との連携まで業務が多岐にわたる中で、新スタッフが入った際の引き継ぎが大きな課題であった。マニュアル化したことで、視覚的にも情報が伝わることとなり、スタッフとも再確認し、常にアップデートしながら業務にあたれる土台となるものとなればと思っている。

一方で、ここまでの3年間で積み重ねてきたことを踏まえてスタッフ同士で議論をしていく必要があることはまだまだ多くある。基本的な業務がルーティーン化されたことに加え、一部のスタッフに集中していた業務が分散できるようになってきた中で、次年度は「なんとなく気になっていたけど話し合えていなかったこと」を話し合う時間を取れるようにしていきたいと思う。

実績

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
登録児童数	14 名	21 名	19 名
利用児童数	12 名	19 名	17 名
利用人数（述べ）	547 名（延べ）	849 名（延べ）	737 名（延べ）
送迎回数（延べ）	514 回	849 回	728 回

(2) 子ども支援事業

2024年1月～12月にかけて横浜銀行の「〈はまぎん〉ミライを創るアクションプログラム」に採択いただき、子ども支援事業として「困難な環境の子どもたちの“生きる力”を育むための体験機会の提供事業」を実施。

青葉区寄り添い型生活支援事業.5（てんご）で出会った子どもたちが、自分たちで選択し得ない家庭・生活環境によって得ることのできない「体験機会のなさ」を少しでも解消し、「生きる力」が育まれるよう、事業所内外の空間でのびのびと遊び、心と体にとっての豊かな学びの時間となる体験機会を提供した。

【活動スケジュール一覧】

はまぎん助成 活動スケジュール（実績）		
年月日	活動内容	備考
2024年3月28日	プール活動	春休み期間を利用し、プール活動を行う。
2024年4月1日	進級お祝い会	進級お祝い会を開催し、昼食の提供および助産師さんによる性教育を行う。
2024年7月24日	ヨガDAY	ヨガの講師を招き、ヨガを体験し自分の心や身体を感じる時間を作る。
2024年7月25日	プール活動	夏休み期間を利用し、地域のボランティアさんによる水泳指導も織り交ぜながらプール活動を行う。
2024年7月29日	プール活動	夏休み期間を利用し、地域のボランティアさんによる水泳指導も織り交ぜながらプール活動を行う。
2024年7月29日	お誕生日会	誕生日を迎えた児童の誕生日会の開催。ケーキなどを提供。
2024年7月31日	低学年行事：はまぎん子ども宇宙科学館	はまぎん子ども宇宙科学館にて、展示物とプラネタリウムを通じて宇宙について学ぶ体験活動を行う。
2024年8月1日	プール活動（児童3名）	夏休み期間を利用し、地域のボランティアさんによる水泳指導も織り交ぜながらプール活動を行う。
2024年8月6日	夢パークDAY（児童4名）	川崎市高津区にある川崎市子ども夢パーク（プレイパーク）にて、外遊びを行う。
2024年8月7日	夢パークDAY（児童2名）	川崎市高津区にある川崎市子ども夢パーク（プレイパーク）にて、外遊びを行う。
2024年8月8日	プール活動（児童4名）	夏休み期間を利用し、地域のボランティアさんによる水泳指導も織り交ぜながらプール活動を行う。
2024年8月9日	プール活動（児童3名）	夏休み期間を利用し、プール活動を行う。
2024年8月14日～15日	高学年行事：黒川青少年野外活動センターでの宿泊（児童7名）	川崎市黒川青少年野外活動センターにて、野外炊事やキャンプファイヤー体験などを行う。宿泊イベントを開催。
2024年8月19日	ヨガDAY（児童3名）	キッズヨガの講師を招き、ヨガを体験し自分の心や身体を感じる時間を作る。
2024年8月20日	ヨガDAY（児童2名）	キッズヨガの講師を招き、ヨガを体験し自分の心や身体を感じる時間を作る。
2024年8月23日	プール活動（児童3名）	夏休み期間を利用し、プール活動を行う。
2024年9月26日	お誕生日会	誕生日を迎えた児童の誕生日会の開催。ケーキなどを提供。
2024年12月25日	クリスマスパーティー	クリスマスパーティーを開催し、ビンゴ大会や謎解きゲームを行う。

（写真左から：芋掘り、クリスマスパーティーでこどもたちと作ったブロッコリーツリー）



（２）学校連携事業

①高校入学前支援セミナー相談会（旧称：入学前支援「ぶぶぶぶ」）～事業概要～

合格発表から入学式までの間に、希望する中学３年生と保護者に対して、県内のカフェ・マスターや支援機関に参加してもらい、セミナー相談会を実施することで、高校進学への不安を解消し、入学前に当法人やカフェ・マスターとの信頼関係を築いた状態で入学式を迎えてもらい、中退・進路未決定者数の減少を目指すと共に、早期に不登校や中退になった場合に、学校以外の相談できる若者支援機関の存在を認識してもらう。

高校入学前支援事前シンポジウムとセミナー相談会 ～中止～

本事業は、各エリアの教育委員会の後援を取って毎年行なってきたものの、中学３年生と保護者の集客が致命的に低く、負担感と成果が見合わず開催を断念することにした。県全体に網を掛けるのではなく、入学が確定した生徒に各校内カフェ実施団体が、入学前カフェ体験等で早期にリーチする方が効果的であると判断。

当法人は、入学前の居場所カフェ体験を田奈高校と大和東高校で実施しているが、本年度は、田奈高校が体育館の耐震工事のため、通常とは違うプログラムになったため中止とし、大和東高校だけの実施となった。20組以上のご家族が来店し、カフェを楽しみ、食べ物配布会を喜んでおり、特にお米を欲しがる保護者が目立った。

②朝食提供事業（朝 BORDER）～事業概要～

「学校での食支援を通じて心身の健康の改善を図り、学習に取り組む姿勢につなげることや生徒が教職員以外の大人と話せる居場所を作ること、大人が生徒の悩みに気付き、生徒一人ひとりに寄り添い、支援すること」を目指して2022年度より県内４校で始まった神奈川県教育委員会の委託事業。当法人では大和東高校の朝食提供事業を受託。

朝 BORDER 振り返り

事業が生徒に浸透して来ていること、つまり期待されていることが肌で実感できるようになって来ている。常連の生徒たちと大人たちとのコミュニケーションも増えている。それにより、挨拶はするものの、その後いつも１人で過ごす生徒が集団の中から浮き彫りになり、気掛かりとなっているが、本事業は支援的な要素が人員的、時間的にも少なく、やはり放課後のカフェとの連動により支援アプローチの導入的位置付けを模索していくのは良いのだろうと感じている。

また、本年度の成果は子ども食堂プロジェクト AT やまとのネットワークにより、思いのある地元ボランティアが増えたことで、地元チームで安定的に運営が可能な体制となったことが挙げられる。多くは大和市役所職員の方等、仕事前の貴重な時間を使って参加してくださっており、大変有り難く感謝している。

2024 年度実績

	開催数	参加生徒数	参加スタッフ数
2022 年	43 回	643 名／平均 15 名	延べ 90 名
2023 年	56 回	1,673 名／平均 30 名	延べ 187 名
2024 年	62 回	2,157 名／平均 35 名	延べ 180 名

※2023 年 5 月 9 日～2024 年 3 月 11 日で実施

③校内居場所カフェ＋食支援事業（2 校）～事業概要～

高校内に居場所カフェを開き、スタッフや多様なロールモデルであるボランティアさんと、日常会話から信頼貯金を貯めつつ、将来の糧となるヒト・モノ・コトの文化資本を高校生に提供する。中退や進路未決定の予防にとどまらず、将来的な社会関係資本への接続から経済資本の獲得を見据えた事業。

連携団体：一般社団法人お寺の未来（おてらおやつクラブ）、フードバンクかながわ 他

校内居場所カフェ振り返り

ぴっかりカフェは、田奈高校への入学者の減少と生徒層の変化によって、学校に「過剰適応」している生徒たちの課題や困難を、どのように発見し支援していくのかがここ数年の課題だった。学校に生徒が「過剰適応」しているということは、カフェにいる大人たちとの会話も「スムーズ」であることが多い反面、生徒のしんどさが表面化しづらいということでもある。生徒との「信頼貯金」を貯めながら、カフェの開催を重ねるごとに、微弱な SOS をキャッチするための質問を徐々に挟んでいった日々が思い返されます。そうして見えてきた生徒の抱えているものは、昨今の物価高に伴い加速しつつある経済的困窮も相まって、より深刻化していると痛感せざるを得なかった。

来年度から田奈高校は総合高校と合併するため、これまで以上に生徒数の増加が見込まれる。そうした大きな変化にぴっかりカフェはどのように合わせていくのかが 1 つのポイントになりそうだ。

BORDER CAFE は、開催場所が 2 階の多目的室から 1 階のラウンジに移り、導線の向上やスペースの拡大から来店生徒数が増えている一方で、大人たちの人手不足が長期的に続き、カフェを運営することだけで精一杯という状況が課題だった。特にマスターとスタッフの 2 人体制だと、生徒と十分に「信頼貯金」を形成することができず、

気になっている生徒にアプローチをするのが難しい日もあった。しかし、こうした状況を見た常連の生徒たちがカウンターや片付けのお手伝いをしてくれたり、地元大和市で行った参加条件を変更したカフェボランティア養成講座が功を奏し、ボランティアさんも増えたことから、少しずつゆとりが生まれ、先月からは、長らくお休みしていた味噌汁提供も再開できた。生徒の抱える困難や課題も徐々に見えつつあるので、この体制を維持&発展しながら、ここから支援につなげていくことが当面の目標である。

	開催数	生徒参加数	ボランティア参加数
ぴっかりカフェ 神奈川県立田奈高校	35 回 (36 回)	1,656 名／平均 47 名 (1,060 名／平均 29 名)	256 名 (204 名)
		中退生/卒業生参加数	食べ物配布会
		67 名 (69 名)	14 回/418 名 (10 回/330 人)
BORDER CAFÉ 神奈川県立大和東高校	34 回 (32 回)	1,446 名／平均 43 名 (1,565 名／平均 43 名)	58 名 (84 名)
		中退生/卒業生参加数	食べ物配布会
		5 名 (1 名)	9 回/239 名 (11 回/523 人)
合計	69 回 (68 回)	3,102 名／平均 44 名 (3,830 名／平均 56 名)	314 名 (288 名)

イベント報告

7 月 11 日（木）田奈高校浴衣パーティー

12 月 19 日（木）田奈高校クリスマス・パーティー（写真中央）

12 月 20 日（金）大和東高校クリスマス・パーティー（写真左）

1 月 3 0 日（木）田奈高校 3 年生ラスト・ぴっかりカフェ。NPO 法人はんなり和菓子ラボさんから紅白饅頭を配っていただいた。

3 月 17 日（月）大和東高校合格者説明カフェ体験会（写真右）



④個別相談事業「Drop-in」～事業概要～

カフェで早期発見した課題を、信託貯金を使いながらソーシャル・ワークへと発展させていく。教員が気づいてない世帯の課題や、発達障害等を発見し、学校やSC、SSW等の専門職と共有することで、中退や進路未決定を予防するとともに、中退後のサポートを可能とする基盤作りを目的とした事業。年間80件程度の個別相談を実施。田奈高校は北部ユースプラザの出張相談事業に位置づけている。

個別相談事業「Drop-in（どろっぴん）」の振り返り

相談の内容はこれまでと変わらず、親の人生に振り回されている生徒ばかりで、アルバイトができるんだからとか、もうすぐ成人なんだからではなく、自分の力だけでは生きていくことができない高校生は、本当に社会的弱者であると毎回痛感している。

大きな変化が起きているのは、担当教員のご尽力で、相談後の担任との振り返りが非常に充実している点について報告しておきたい。毎回2名から3名程度の相談を月2回行なっているが、終了後に担任（田奈高校はダブル担任なので2名）＋担当教員の3名に対して振り返りを行なっている。

この時間を先生たちがおざなりにしておらず、むしろ熱心に石井の話を聞き、日頃の様子と照らし合わせ、次の打ち手である支援方針を一緒に考える場になっている。1人に対して15分から30分近く話す場合もあるが、1人の生徒のためにこれだけの時間を割いて意見交換をすることは、学校の中ではレアな時間であり、貴重な時間になっていると思われる。

余談となるが、教員にとってわかりにくいカフェだけではなく、教員にもわかりやすい相談で引き出される情報や、それに対する見解と見通しは、私たちの力量を見せる絶好の機会にもなっており、カフェで遊んでいるようだが、しっかりと生徒との信託貯金を貯め、踏み込んだ関係性からの確かな助言をしているという評価を与えていると実感している。カフェだけをやっている大和東高校（その他多くの校内居場所カフェ）などよりも、教員の信頼を獲得しやすい仕掛けにもなっていることをお伝えしたいと思う。

2024年度実績（ ）内は前度の実績

	開催数	相談件数
神奈川県立田奈高等学校	22回(26回)	29件(21件)
神奈川県立大和東高等学校	0回(0回)	0件(0件)
合計	22回(26回)	29件(21件)

⑤ボランティアさん養成講座～事業概要～

先生でも親でも支援者でもない、フラットな立ち位置で生徒と接していただくボランティアさんに、ミッションの理解や、引きこもり等の若者が置かれている実情（対処型支援）を知ることで、校内居場所カフェ（予防型支援）の意義と価値をご理解いただき、コンプライアンスへの誓約をしていただく。

2022 年度より後述する朝食提供事業がスタートしたことにより、朝食提供事業のボランティア・準スタッフも養成講座を受講することで参加いただけるようにしている。

ボランティアさん養成講座の振り返り

ボランティア養成講座は、本講座からボランティア参加にほとんど繋がらないことが課題となっていた。その要因を伝える情報が重々しいことだと捉え、参加して楽しい講座を強調するようにしたものの、あまり変わらずという状況だった。

これについては、ボランティア養成講座＝石井のお話を安価で聞けるプチ講演会としての機能を求めている参加者が多く、ボランティアに参加するためというより、聞くことが目的化していることがもう一つの要因ではないかと考えた。

そのため、昨年度末の会議でボランティア養成講座への参加条件を設けることにした。それは、養成講座に参加後 3 ヶ月以内に一度はボランティアとして参加するというものである。これにより、養成講座をボランティア参加のためのものとして改めて位置づけ直すだけでなく、講座を受講してから期間が空くことで参加へのハードルが上がることを防ぐことを意図した。

これら改定を行った養成講座を今年度に一度行ったところ、参加者 3 名全員が講座受講後 1 ヶ月以内にボランティア参加をしてくれただけでなく、うち 2 名は定期的に参加していただけるようになった。ボランティアさんはカフェの魅力の源泉でもあるので、このボランティア養成講座を通じて多くの方と出会えるよう、試行錯誤しながら続けていく。

開催数：2 回（3 回） 参加者数：12 名（15 名）

2024 年度実績（ ）内は前度の実績

	開催数	参加数
養成講座	2 回（3 回）	12 名（15 名）

⑥中退者・卒業生支援～事業概要～

卒業生や中退生の支援は、カフェが起点になり始まることが多くあります。卒業後にふらっとやってきて、少し心配な話があり、そこから相談がスタートするケース。カフェボランティアに来てくれている中で、相談へと切り替わっていくケース。そして、LINEでのつぶやきから相談がスタートすることが多く、多くが対面で会って話をするというよりも、日常会話を含めた細々としたLINEのやり取りの中で、少しずつ少しずつ相談の概要が見えてくることも多いのが大きな特徴である。

パノラマでは、公式LINEを作り、卒業生や中退生に渡す「おまもりカード」に掲載をして配布している。また、卒業後や中退後の相談の中には生活困窮や家庭からの分離など、制度のすき間の緊急支援も多くあることから、「フレームイン基金」を立ち上げ、随時寄付を募っている。

中退者・卒業生支援の振り返り

卒業生の数が安定しているのは、ぴっかりカフェからの次がなく、2名の卒業生の滞留が起きているからである。卒業生Aは北部ユースプラザに登録したものの定着しなかった(カフェには来て北プラには行けないことについては別の機会に考察したい)。Aはカフェにもボランティアなのか遊びに来ているだけなのか、曖昧な状態の利用となっており、時折近況を確認する面談を行なっている。

Bは、B型作業所の利用を開始したものの、調子を崩し行けなくなっている状態である。Aと同じくそれでもカフェには必ず来ている。希死念慮が強く、カフェの利用だけで支援ができる状態ではない。しかし、もしも2人にぴっかりカフェがなかったら、恐らくひきこもり状態になっていたであろうことは想像に容易い。その意味では価値があるものの、これが数年続いたらどうなるのか、とても心配な状況である。

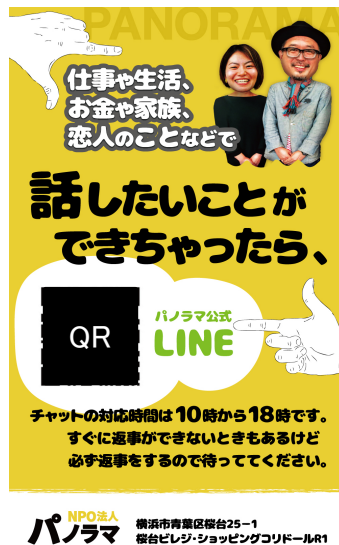
そんな中、法人としての理想的な事例が生まれている。1年生の頃から早々に相談に乗っていたCは、3年生の自由登校となった2月に北部ユースプラザの利用を開始した。卒業と同時に、仕事探しを手伝い、アルバイトを開始した。3月には行政手続きに同行した。その後、福祉的サービスを利用するためのサポートを行い、現在、某支援機関に体験に申し込んだ。この展開の速さは若さである。

Cと学校内で出会い(早期発見)、3年間で大きな信頼貯金を貯められたことにより、Cが大きな社会的ブランクをつくることなく、早期支援として、当法人のセクションを跨ぎ、然るべき支援につながったこと。これは私たちが目指して来た途切れのない支援のひとつの形である。ただし、セクションを跨ぐことに多少の混乱などはあった。今後、てんごからカフェ、カフェから北プラという事例が出てくることを見据えた、体制づくりを強化していきたいと思う。

2024 年度実績

	田奈高校	大和東高校
中退生	4 名	0 名
卒業生	63 名	7 名
合計	名 67 名	名 7 名

卒業式や卒業生の来所時に配布しているお守りカード



大和東高校で行ったカフェ体験会に参加してくれた卒業生2名。1人は1年生からカフェの常連となったが、教員から「大人に不信感を持っており、心を開かない」という情報共有のあった生徒だったが、皿回しやけん玉をきっかけにカフェに定着し、3年生の時にはクリスマス・パーティーの司会を買って出てくれた。

卒後は、絶対にカフェの手伝いに来ると宣言していたが、その宣言通り、ことあるごとに参加してくれている。そこで話される過去の話などを聞いていると、カフェが心の拠り所になっていたことを感じられる。これが「母校保障」なんだと私たちは考えている。

⑦校内居場所カフェ全国ネットワーク～事業概要～

校内居場所カフェ全国ネットワーク設立準備委員会（以下、全国ネット）は、WAM の制度化検討委員会や WAM のコンサルテーションを通じて、制度化を目指すのならば、1 団体で声を上げるのではなく、全国で居場所カフェを運営する複数団体の総意として、政策提言をつくり、国に訴えるべきとの助言をいただいたことから始まった。

全国の 4 団体にお声かけをしたが、1 団体が考え方の違いにより全国ネットには入らないことを表明され、以下の 3 団体と全国ネット準備委員会として活動を開始している。離脱の理由は、質の担保ができないまま予算だけがつくことによる質の低下の懸念であったが、予算がつかない不安定な運営状況のなか、質の向上どころか、運営の継続自体が難しい現状があり、当法人としては、校内居場所カフェスタッフ養成講座の準備もあり、全国ネットを通じて、質の向上に貢献していく所存で、本事業を進めている。

幹事団体

1. NPO 法人パノラマ
2. 認定 NPO 法人 Switch（宮城）
3. NPO 法人しずおか共育ネット（静岡）
4. 認定 NPO 法人心燈（長崎）
5. NPO 法人こどもソーシャルワークセンター（滋賀）
6. 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 Youth+ポプラ（北海道）

以下は、2024 年度 WAM 事業報告書より抜粋

2024 年度の校内居場所カフェ全国ネットワークのイベント振り返り

※2024 年度はすべてオンライン開催。

『第 1 回 校内居場所カフェ・オンライン全国交流会』は 8 月 7 日。ここまで伴走して下さった宮本みち子先生に記念講演をお願いした。若者支援の文脈に於いての校内居場所カフェの意義や価値についてお話しして下さった。そして、全国にどんなカフェがあるのかを知ろうということで、全国 16 のカフェによる「全国校内居場所カフェ大プレゼン大会！」を実施した。本当にカラフルで多様なスタイルのカフェがあることがわかりワクワクとした希望を感じるイベントとなった。

第 2 回は 11 月 7 日。「知る」から「出会う」をテーマに『カフェ話を中心にスタッフ同士が交流を図る Vol.1』と題した交流中心のイベントにした。前回の大プレゼンに漏れた 6 団体のプレゼンのあと、テーマごとに分けた 4 つのブレイクアウト・ルームを

作り、40分×2回の部屋移動で交流を図っていただいた。日頃、会ったことはないが、同じような活動を通して、同じような感情の波を抱いている人たちが出会い、語り合うとはこういうことか、と強く感じるイベントとなった。

4つのブレイクアウト・ルームのテーマ

- | | |
|-------------------|----------------|
| ①支援団体を入れずに運営するカフェ | ③全日制高校のカフェ |
| ②中学校カフェ | ④定時制・通信制高校のカフェ |

第3回は『カフェ話を中心にスタッフ同士が交流を図る Vol.2』を2月20日に開催。前回、十分な交流の時間を設けていたと感じていたが、アンケート結果を見ると「時間が足りない」という不満の声があり、全国ネットワークに求めているものが他団体との交流ということもあり、話したければ80分同じ部屋で交流を図れる構成とした。いろいろな部屋の話をお聞きしたい人、話したい人は自由に部屋を移動できるようにし、雑談部屋まで設け、おまけに話し足りない人たちには、終了後も話せるアフター部屋まで用意した。

7つのブレイクアウト・ルームのテーマ

- | | |
|---|--------------------------|
| ① 学校・教員との関係作りに悩める
カフェスタッフ部屋 | ④ 学校開拓難航中のカフェスタッフ
の部屋 |
| ② ボランティアの募集・養成、学
校の許可に悩めるカフェスタッ
フ部屋 | ⑤ ユーススタッフの部屋 |
| ③ 運営資金に悩めるカフェスタッ
フの部屋 | ⑥ 地方あるあるの部屋 |
| | ⑦ 雑談部屋 |

2025年度も4回のイベントを企画している。交流から徐々にカフェの質の向上を狙った学習会的集まりなどが企画されていくと思うし、全国ネットワークに頼らない交流が生まれることも期待している。

第3回交流会のアンケートから

- 交流の時間が多くて、関係者と近くなれた感じがしました。日常的につながることができるプラットフォームや連絡先交換などがあるといいなと、今回思うことができました。それくらい近くなれた感じを覚えました。
- フリートークの時間をたっぷり取って頂いていたことがものすごく斬新でした。
(中略) フリートーク&後半のアフタートークに めちゃめちゃ感激しました。
- このオンライン交流会、毎月あっても、と思うのは私だけでしょうか？

2. 若年者就労支援事業

(1) 有給職業体験バイターン～事業概要～

働くことに強い不安を抱え、アルバイトに就けない生徒や引きこもり等を経験した若者がいる。就職協定から切り離れた福祉的マッチングを必要としている生徒や、通常の履歴書/面接を経た就労が困難な若者が多くいる。このような生徒が、進路未決定からひきこもり等に陥るリスクが極めて高く、引きこもり等の若者たちの出口支援として就労支援がなければ、経済的自立状態に辿り着くことができない。“安心できる大人”のいるアルバイト先を紹介し、3日間の無給の職場体験を経て有給のアルバイトとなり、働くための基礎体力をつけ、一般の就職活動をしてもらうか、そのままアルバイト先での就職を目指すことを目的とした事業。

実施校：神奈川県立田奈高校

実施機関：よこはま北部ユースプラザ

有給職業体験バイターンの振り返り

2024年度のバイターンは、「赤い羽根福祉基金」を活用して実施した。以下は、助成金報告書より抜粋

生保バイターン：従来の生活保護世帯の生徒の進路指導が、生保世帯という特殊な事情が勘案されずに指導されており、保護者・生徒にとっての利益保障がされていなかったが、当法人の生保バイターンを起点とした、生保世帯の自立支援の在り方について、SSWを中心に、支援の気運を醸成することができた。また、福祉事務所が協力的に動いて下さり、関係構築も僅かながら進んでいる。

北部ユースプラザ：毎年のように若者を受け入れてもらっている団体で2名が体験でき、数年先に体験している若者が先輩として教えるというカタチが実現した。新しく体験した若者はもちろん、先輩側にとってもフェーズが進んだのをともに感じる事ができた。また、介護系の一般のアルバイトの面接に通らなかった自己PRの苦手な若者がバイターンとしてデイサービスにつながる事ができ、成功体験を積むことができていた。

法人内バイターン：働く力があるにも関わらず、心理的に難しく、なかなか経験を積むことができなかった若者を中心にトライしてもらった。通い慣れた場所・顔見知りのスタッフにいつでも質問できる状況で働く体験ができるということで、回数を重ねること

で確実に自信につながっているのを見ることができた。月 1 回程度の開催ではあったが、メンバーが重なることも多く、スタッフを挟まなくてもやり取りができるようにも少しずつなっている。

【2024 年度の実績】

●バイターン

	2023 年度	2024 年度
参加延べ人数	18 名（田奈高校 1 名含む）	17 名（田奈高校 0 名含む）
体験延べ回数	11 回	17 回
参加者数	7 名 内訳：採用 1 名、辞退 6 名、	5 名 内訳：採用 2 名、辞退 2 名 先方都合不可 1 名（スタッフ不足で教育できないとのこと）
採用者	1 名 内訳：中途退職者 1 名	2 名 内訳：就労継続中 2 名
受け入れ企業数	4 社 内訳：清掃業、動物広場、デ イサービス、美容院	2 社 内訳：WEB 関係、デイサー ビス
新規・再発掘企業数	3 社 内訳：ボイス、ふれあい動物 広場、イタリアンバルバンビ ーノ	0 社

●法人内バイターン

	2023 年度	2024 年度
参加延べ人数		15 名（田奈高校 0 名含む）
体験延べ回数		15 回
参加者数		9 名
受け入れ企業数		2 社 内訳：ネットショップ、パノ ラマ
新規・再発掘企業数		1 社 森ノオト

4. 若者自立支援事業

(1) よこはま北部ユースプラザ（横浜市補助事業）

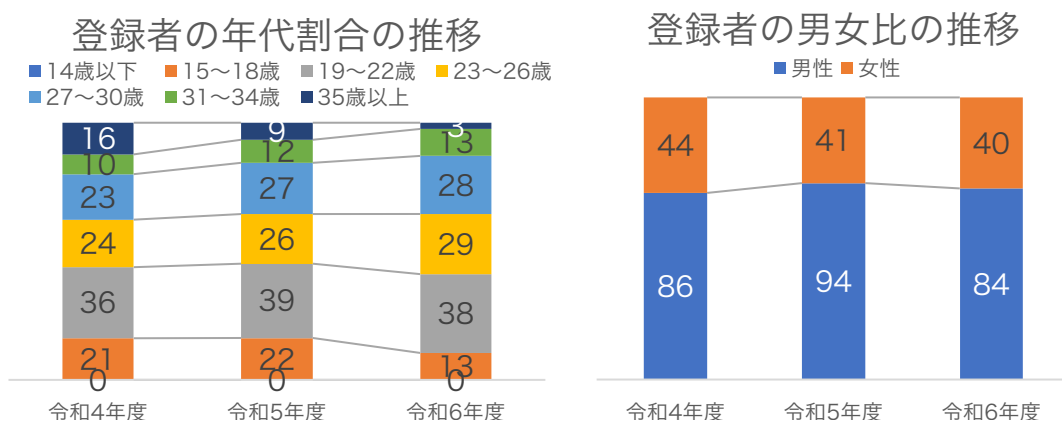
よこはま北部ユースプラザ：不登校、ひきこもりなどの思春期・青年期の総合相談

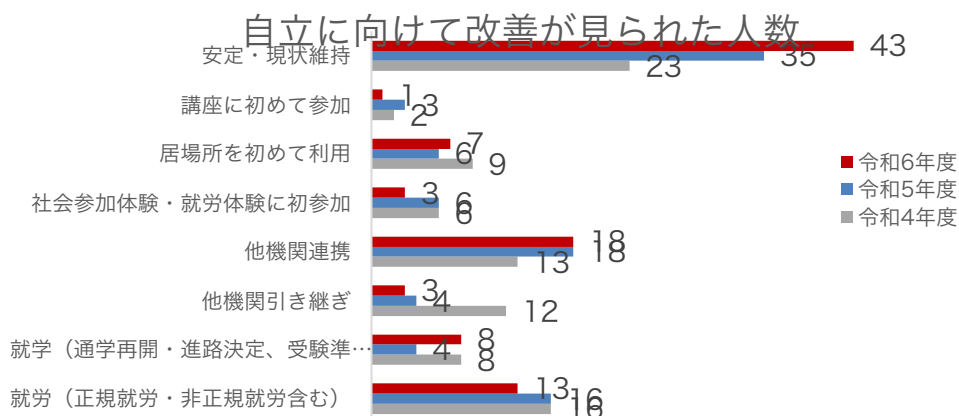
1. 区役所におけるひきこもり等の困難を抱える若者の相談の実施
2. ひきこもりからの回復期にある若者の居場所の運営
3. 社会体験・就労体験プログラムの実施
4. 地域の関係支援機関、区役所との連携及び地域ネットワークづくり
5. 応援パートナーの養成・派遣

本年度は、年度当初に常勤職の離職もあり、限られた人員の中で、できることとやりたいことの間で、日々悩み続ける１年となった。また私たちだけでは、対応できない多様な課題にも多く直面した１年でもあった。しかし、これらを他機関との連携により、利用者の最善に利益となるよう寄り添い続けたことで、私たちの活動ポリシーに対する、他機関からの共感も多く得られたように思われる。

支援実績では、一部の数値を除いて、多くの数値が利用者の減少を示しているが、その要因は多岐に渡るため、性急に結論を出すのではなく、数値の同行を追っていきながら判断したいと考えている。

一方、利用する若者たちの成長が多々みられた年でもあった。北プラ以外にも所属先などを見つけた若者たちや、『北ペラ』という同人誌的な冊子の制作など、運営の主軸が利用者たちに預けられるような成熟した活動も生まれた。これらを見守りながら、何を認め、何を認めないのか等の議論から、スタッフらの相互理解が進んだことは、大きな収穫だったと感じている。





上記は、直近3年間の利用者の改善が見られた人数である。「安定・現状維持」は、状況が悪化もしくは向上したものは抜いているので、この数が年々上昇しているということは、利用者が固定化していることを表しているが、上述したような漫然とした滞留ではなく、利用者の成長がみられる点や、他機関の良好な関係、法人バイターンなどの新たな支援の手を打っており、今後の経過を見守っていきたいと考えているが、北プラの次がなかなか決まらず、一度他機関リファーや就労を開始した利用者が出戻り状態となっていることは、次年度以降の課題として受け止めている。

よこはま北部ユースプラザ実績

	2022 年度	2023 年度	2024 年度
開所日数	271 日※コロナ対応で8月3日から8月6日まで居場所は休止	282 日	277 日
利用者数（本人・保護者・関係機関を含む）	延べ 3,471 名	延べ 3,602 名	延べ 2,934 名
新規来所者（見学・保護者のみ含む）	94 名（本人性別：男 21 名、女 73 名）うち 44 名が新規登録	103 名（本人性別：男 67 名、女 36 名）うち 38 名が新規登録	104 名（本人性別：59 名、45 名）うち 36 名が新規登録
応援パートナー登録数	延べ 38 名（個人登録 33 名、団体登録 5 名） うち新規：個人登録 4 名	延べ 36 名（個人登録 31 名、団体登録 5 団体）うち新規：個人登録 1 名、団体登録 3 団体	延べ 57 名（個人登録 32 名、団体登録 5 団体）うち新規：個人登録 5 名
応援パートナー実施回数	38 回	69 回	66 回

2024 年度 実施プログラム

講座（プログラム）名	実施回数	参加人数	主な内容の紹介	時期・頻度
フィジカル DIG 音	1	6	レコードから好きな曲を選曲して実際にプレイヤーにかけてみる体験をする企画。	不定期
Dig 音	12	99	テーマを決めて好きな音楽の紹介やイントロクイズを実施。	月 1 回
手芸同好会	2	8	本年度はシーリングワックスでスタンプづくり、アクアビーズを実施。	不定期
イラスト同好会	1	1	好きな絵はもちろんのこと、テーマに沿った絵を描くなど自由に絵を描いて共有し合う企画。	不定期
もくもく会	4	10	各自にやりたいことを静かな時間で取り組む企画、読書、パズル、アルバイトの振り返りなどそれぞれ取り組んでいた。	月 1 回
ボードゲームをやる会	5	33	時間をしっかり取って所要時間の長いボードゲームを実施。	不定期
ものづくり販促部	2	6	県の青少年センターが主催するイベントの準備作業を行った。アクセサリー作りを実施。	8～9 月
トランプの会	9	34	新規利用者でも参加しやすい企画として実施。ババ抜きや神経衰弱など比較的簡単なトランプゲームから交流を深める。	月 1 回
花見を愉しむ会	2	16	近くの公園へ桜を観に行き、花見をしながらスポーツやボードゲームを楽しんだ。	4 月、3 月
文集の集い	17	87	文集発刊のための編集会議を実施。利用者が主体となって話し合い、本年度は 2 冊を発行した。	月 1-2 回
居場所会議	1	7	居場所のあり方やなど自治的な意見交換をする会議を実施。	11 月
アート同好会	3	11	様々なアート手法を取り入れてアートを楽しむ企画。マーブリング、スクラッチ、ドットアートを実施した。	不定期
プログラム会議	2	12	新しいプログラムの企画やアイディアをブレストして出し合う会議を実施。	不定期
楽器体験会	1	11	ギターやベース、コントラバスなど様々な楽器を体験できる会を実施。	不定期
収穫祭ボラ説明会&mtg	3	13	地域の NPO が主催するマルシェのボランティアに参加するための説明会を実施。	不定期
ハロウィンイベント(準備会議等含む)	2	12	季節行事。パンプキンスープづくりやクイズ大会を実施した。	10 月
クリスマス・大掃除準備 (m t g & 買い出し)	2	7	クリスマスと大掃除の準備のための会議を実施。	11-12 月
クリスマスイベント	1	12	季節行事。パンプキンパイやクイ	12 月

			ズ大会を実施。	
大掃除	2	18	年末に利用者とスタッフ全員で施設の清掃を実施。	12月
ゆく年くる年	1	12	1年間のユースプラザの出来事やプログラム、個人の振り返りを実施。	12月
ゆるゆる体操&ストレッチ	3	14	居場所で強度の低い体操やストレッチを実施。ゆるさもあり身体を動かしたい利用者が多数参加。	不定期
ウーマンズラウンジ（女子会）	6	15	女子限定のイベント。ハーブティーやメイク、浴衣など利用者の意見を取り入れながら実施。	不定期
新年散歩（初詣）	1	5	近くの神社へ初詣に行く企画。	1月
スタッフに教える会	3	17	利用者がスタッフに教えたいことを持ち寄って伝える企画。アニメや漫画、音楽など多岐に渡っていた。	月1回
ブルーラインウォーク	2	11	横浜市営地下鉄の全駅を、2日間かけて徒歩で制覇する企画。	5月
アートプロジェクト準備	1	3	横浜市が主催するイベントのアート作品の展示作業を実施。	不定期
句会講座・句会・講座	13	56	俳句を一句詠むことはもちろんのこと、俳人当てクイズや句の貼り出し作業も主体的に実施していた。	月1回
若者のための生活科	2	13	本年度はコミュニケーション講座（仕事、恋愛、SNS 編）と外部講師を読んで福利厚生について学んだ。	不定期
夏祭り会議・夏祭り	3	28	季節行事。かき氷、浴衣、かくし芸、クイズ、音楽など多岐に渡って企画を実施。	7-8月
フリフェス mtg	4	29	県の青少年センターが主催するイベントの準備会議を実施した。	8月
DIG カルチャー	7	47	スポーツ、絵本、ゲーム、お笑いなど多岐に渡って、自身が語りたいことを語り合う会を実施。	月1回
防災イベント（屋内）	1	5	防災食を試食する会を実施。それぞれの地震の経験談など防災意識を高めることに寄与した。	不定期
料理プログラム	1	4	生活力向上や自炊習慣を目標に、料理講座を行った。	不定期
地域手作り市プロジェクト	3	12	地域の手作り市出展に向けて、ものづくり販促部の参加者も加わりつつ、準備を進めた。	不定期



5.中高音ひきこもり支援事業「ブリッジ」

(1) オンラインによる会話サービス「ブリッジ」～事業概要～

人と会う負担が少ないオンライン・コミュニケーション・ツール ZOOM を使い、ひきこもり支援の専門家が、遠くの友人のような関係性を継続的に提供し、ご自宅での「生活の質」の向上をサポートすることで、次の一歩への橋渡しをゆるやかにアシストする 40 歳以上のひきこもり者に対する実験的な支援事業。本事業は、クライアントと以下の 3 つの約束をして行う。①人に会うこと、働くことを強要しない。②相談を強要したり、家には行かない。③あなたらしくいることを尊重する。

オンラインによる会話サービス「ブリッジ」振り返り

異業種ネットワークにより 8050 問題の支援の在り方について考える「R40 勉強会」が隔月 1 回オンラインでの活動が継続している。参加メンバーは固定の方々と不定期の方がいるが、主には以下のような高齢者支援をされている方々が参加。

本勉強会による効果か、2024 年度、市内の瀬谷区、南区、鶴見区から居宅介護支援員に対する、ひきこもり支援の基礎研修のような講演依頼があった。どれも、高齢者介護で自宅にお邪魔した際に、50 代のひきこもりの家族がいることがわかり、どのように支援したら良いかわからず、心的な負担になっているというニーズであった。

この間、本勉強会に一定の価値を見出しているため、本年度よりセミクロードでの運営に年度後半から切り替えている。参加メンバーとフェイス・トゥ・フェイスでの関係がある、横浜市内でひきこもりや高齢者介護支援を行う方を対象とした勉強会にすることになった。石井の講演を主催した鶴見区の方がメンバーになるなど発展の兆しが見られる。

2024 年度の開催は 4/16、6/11、8/20、10/15、12/17、2/25 計 6 回。尚、昨年度エントリーした「令和 6 年度社会福祉推進事業」（厚労省）が不採択となっている。

6. 啓発事業

(1) 校内居場所カフェ・スタッフ養成講座事業

毎年、講師である石井自身が、1年間の校内居場所カフェの実践の場に立ち続けたことによるアップデートした情報と、普遍的なユースワークの姿勢、校内居場所カフェ全国ネットワークで得た全国の様子を伝えることができ、年々精度が上がっている講座になっていると自負しており、参加者の養成講座の満足度も高い。

一方、参加者人数が少なくなっているのも事実である。恐らく参加費よりも、二日間の拘束がハードルになっているように思われる。当初、1泊2日にすることで参加者の懇親が深まり、ネットワークの醸成につながると考えていたが、ほとんどの参加者は(かなり遠方でも)自宅に帰っており、デメリットになっている状態がある。

フェイスブック等で、地方からの参加のニーズがあるが、東京開催では遠くで参加できないということも聞くため、企画改善の必要を感じている。

- 基礎知識編@東京 9月22～23日 参加人数 6名
- 基礎対応編@東京 1月25～26日 参加人数 5名



参加者は、中学校カフェに取り組む団体スタッフや、東京都のユース・ソーシャル・ワーカー(YSW)、将来、地元で校内居場所カフェの立ち上げを考えている方、同業異種で居場所づくりに課題を感じている施設管理者など、多様な方々が様々なエリアから参加してくださっている。一番遠くからの参加は沖縄だった。

7. 事務局

(1) 組織基盤強化事業 ～事業概要～

パノラマは、校内居場所カフェからスタートし、現在は小学生から 40 歳以上までの幅広い年代での事業を展開し、全国ネットワークも組織化する等、法人事業が拡大してきた。一方で、組織体制の強化が追いついていない現状がある。2023 年度以降は事業拡大ではなく、事業の安定化と深化を目指していく中で、本助成により組織の課題を洗い出し、より多くの子ども・若者のニーズに応えられるような強固で持続可能な組織体制を構築していくことを目指す。本年度は、2023 年度に大和証券基盤強化助成事業で関係を構築してきたコンサルタントとともに、組織全体の課題を精査し、抜本的な対応策と一緒に協議し、実際の対応に伴走支援してもらった。法人の組織基盤が安定することで、こども・若者によりよい支援を持続的に届けられるとともに、当法人の啓発活動もより充実し、全国のこども・若者の状況改善にも寄与できていると考えている。

【組織基盤強化事業 振り返り】

2023 年に大和証券こどもサステナブル基金から助成いただき、初めて事務局の組織基盤強化に取り組み、寄付キャンペーンツールの作成等のファンドレイジングに焦点を当てた取り組みをおこなったが、今年は Panasonic NPO/NGO サポートファンドを採択いただき、こどもサステナブル基金でも伴走支援いただいた認定 NPO 法人アカツキに事業全体の伴走支援をお願いし、【人事・組織環境改善】【財務改善】の 2 軸で基盤強化に取り組んだ。【人事・組織環境改善】においては、2023 年 1-3 月に計画策定し、3 月 4 月に理事長以下スタッフ全員のヒアリングを実施、ヒアリング結果報告とスタッフ全体へのシェア、報告を受けてのスタッフ間での気持ちのシェアや、課題解決に向けた取り組み施策についてのスタッフ全体会議、管理職会議や理事会での議論、と 11 月まで時間をかけて取り組んだ。また、施策の一つとして、管理職研修も初めて実施した。【財務改善】においては、初めてマンスリーサポーターに特化したキャンペーンを 12-1 月で実施した。

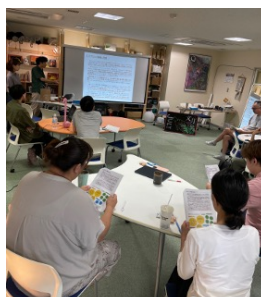
【人事・組織環境改善】では、外部コンサルからのヒアリングを初めて行ったことで、法人が変わろうとしていることをスタッフもキャッチし、「皆で働きかけて組織を作っていく」という意識も少しずつ醸成されたり、誰も気づいてすらいなかった構造的な課題 (ex 正会員や監事が機能していない問題) についても認識・共有することができた。また、理事の意識・現場への関わり方の変化も現れた。ヒアリング結果からの施策立案を行う過程で、若者・こども部門それぞれの違いも明らかになり、法人の現状についての解像度は上がった。また、法人の現状に即した形での人事施策 (案) とロードマップも作成することができた。【財務改善】では、マンスリーキャンペーンにより、6 名のマンスリー会員から +19 名の 25 名のマンスリー会員獲得となり、ファンドレイジングナレッジは一通り身についた。Panasonic サポートファンドは、2 年目も採択いただいたため、「継続」と「深化」をコンセプトとして、本助成期間後も自団体の取り組みとして組織基盤を常に意識して活動できるよう定着と発展を図っていく。

2024 年-基盤強化実施内容】

※Panasonic 助成は 1 年目 2024/1-12 月、2 年目 2025/1-12 月

実施日程	主な実施項目			
2024/1 月	1 年間の事業全体の内容・計画策定			
2024/2 月	ヒアリング内容・実行計画策定			
2024/3 月	ヒアリング実施			
2024/4 月	ヒアリング実施			
2024/5 月	ヒアリング結果報告とスタッフ全体への結果シェア方法について議論			
2024/6 月				
2024/7 月	アカツキヒアリング結果報告会と取り組み施策について全体議論 (7/10、8/5)			
2024/8 月				
2024/9 月	課題解決に向けた取り組み施策についてのスタッフ全体会議 (9/9)			
2024/10 月	全体会議を受けて管理職会議で議論+理事宛相談	理念共有ワークショップ (WS) 計画	人事施策案+ロードマップ作成	寄付キャンペーン計画策定+寄付サイト構築
2024/11 月				
2024/12 月	1 年間の全体ふりかえり実施	管理職研修①		マンスリーキャンペーン実施

(写真左から：寄付キャンペーンバナー、アカツキ報告会、スタッフ全体会議)



以上